

SPEED '98改訂版に記載する項目について（案）

改訂版 記載項目	現行SPEED '98記載項目
<p>0 はじめに ・経緯</p>	<p>0 はじめに</p>
<p>内分泌攪乱化学物質問題に関するこれまでの取組</p> <p>1. 取組の状況</p> <p>(1) 環境中での検出状況、野生生物等への影響に係る実態調査</p> <p>(2) 試験研究及び技術開発</p> <p>(3) 環境リスク評価、環境リスク管理及び情報提供</p> <p>(4) 国際的なネットワーク強化</p> <p>2. 有害性評価</p> <p>(1) ヒトの健康への影響に関する報告例及び評価</p> <p>(2) 野生生物への影響に関する報告例及び評価</p>	<p>内分泌攪乱化学物質問題について</p> <p>1. 内分泌攪乱化学物質問題とは</p> <p>(1) ヒトや野生生物等への影響</p> <p>(2) 内分泌攪乱化学物質の定義</p> <p>(3) 内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム</p> <p>2. スクリーニング・試験法について</p> <p>3. 調査研究に当たって考慮すべき事項</p> <p>4. 天然女性ホルモン等</p> <p>(1) 人畜由来女性ホルモン等</p> <p>(2) 植物エストロジェン</p>
<p>課題と今後の方向性</p> <p>1. 基本的な考え方</p> <p>・内分泌攪乱作用について</p> <p>・対象とすべき範囲</p> <p>2. 今後の方向性</p> <p>(1) 基盤的研究の推進</p> <p>(2) 環境中での検出状況の把握、野生生物等の観察</p> <p>(3) 影響評価のための技術開発の推進</p> <p>(4) 曝露の測定</p> <p>(5) リスク評価・リスク管理</p> <p>(6) リスクコミュニケーションの推進</p> <p>・産学官での取組</p> <p>(7) 取組に当たって配慮すべき事項</p> <p>付属資料</p> <p>・世界の取組の動向</p> <p>・化学物質検討フロー図</p> <p>・参考文献</p> <p>・委員名簿</p>	<p>本問題に対する環境庁の対応状況と今後の方向性について</p> <p>1. 基本的な考え方</p> <p>2. 環境庁の取組状況と今後の対応方針</p> <p>(1) 環境中での検出状況、野生生物等への影響に係る実態調査の推進</p> <p>(2) 試験研究及び技術開発の推進</p> <p>(3) 環境リスク評価、環境リスク管理及び情報提供の推進</p> <p>(4) 国際的なネットワーク強化のための努力</p> <p>世界の取組の動向について</p> <p>1. 米国の取組</p> <p>2. 英国の取組</p> <p>3. 経済協力開発機構（OECD）の取組</p> <p>4. 欧州委員会（EU）の取組</p> <p>図表等</p> <p>・年次経過</p> <p>・文献</p> <p>・野生生物への影響に関する報告</p> <p>・委員名簿</p> <p>・人の主要なホルモンの作用及び過不足により起こりうる疾患</p> <p>・内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム</p> <p>・スクリーニング及び検査計画案の概要</p> <p>・内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質</p>